

平成29年 3月 1日
東日本高速道路株式会社

暫定二車線の高速道路:ワイヤロープ試行設置区間について

東日本高速道路株式会社は、平成28年12月26日の「高速道路の正面衝突事故防止対策に関する技術検討委員会(第1回)」におけるワイヤロープ試行設置路線の選定を受け、関係機関と協議を実施した結果、具体的な試行設置区間が決定しましたのでお知らせします。

今後、平成29年4月から順次、設置を開始する予定です。なお、現地施工の際には交通規制を行う予定です。交通規制の詳細については、決まり次第改めてお知らせいたします。

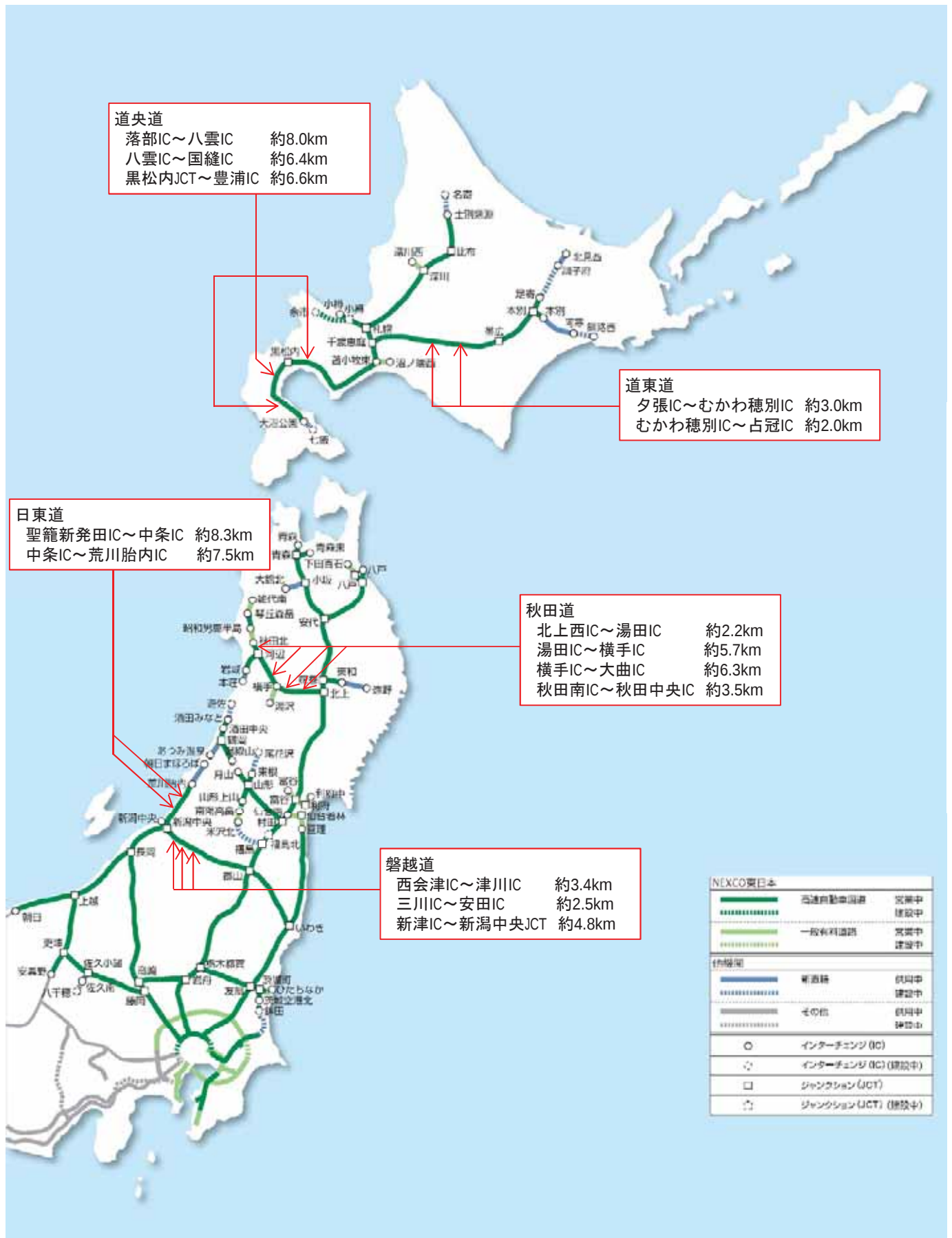
○ NEXCO東日本 試行設置延長 合計約70.2km

道路名	試行設置 IC 間	試行設置区間延長
道央道	落部 IC～八雲 IC	約8.0km
	八雲 IC～国縫 IC	約6.4km
	黒松内 JCT～豊浦 IC	約6.6km
道東道	夕張 IC～むかわ穂別 IC	約3.0km
	むかわ穂別 IC～占冠 IC	約2.0km
秋田道	北上西 IC～湯田 IC	約2.2km
	湯田 IC～横手 IC	約5.7km
	横手 IC～大曲 IC	約6.3km
	秋田南 IC～秋田中央 IC	約3.5km
日東道	聖籠新発田 IC～中条 IC	約8.3km
	中条 IC～荒川胎内 IC	約7.5km
磐越道	西会津 IC～津川 IC	約3.4km
	三川 IC～安田 IC	約2.5km
	新津 IC～新潟中央 JCT	約4.8km

《別添資料》

・ワイヤロープの試行設置区間

ワイヤロープの試行設置区間(広域図)



ワイヤロープについて

〔ラバーポール〕

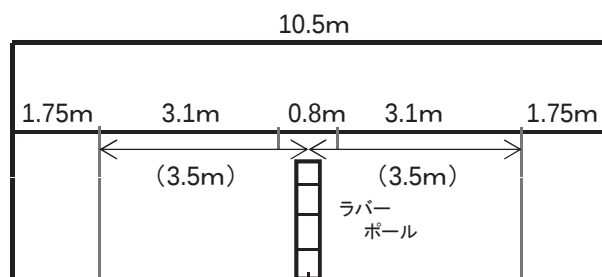


〔ワイヤロープ〕

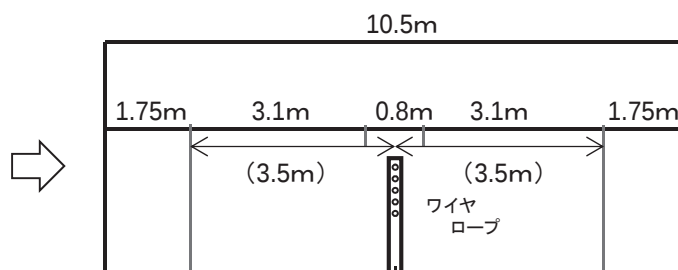


※ 写真は中央帯1.5mを確保して設置している事例

〔現行〕



〔試行設置(案)〕



【ワイヤロープの特徴】

①高い衝撃緩和性能

車両衝突時に中間支柱が倒れ、ワイヤロープのたわみが車両の衝撃を緩和して、安全に誘導。



車両が受ける衝撃を緩和

②狭い幅で設置が可能

細い支柱にワイヤロープを通してあるので、設置幅が少なく、既存幅員内で設置が可能。



細い支柱

③短時間で容易に開口部を設置

事故等の緊急時には、人力のみで容易にワイヤロープと支柱を取り外し、どこでも開口部を設けることが可能。



人力で開口部が設置可能

ワイヤロープの試行設置区間(道央道、道東道)

道路名	設置箇所
道央自動車道	落部IC～八雲ICのうち約8.0km
	八雲IC～国縫ICのうち約6.4km
	黒松内JCT～豊浦ICのうち約6.6km
道東自動車道	夕張IC～むかわ穂別ICのうち約3.0km
	むかわ穂別IC～占冠ICのうち約2.0km

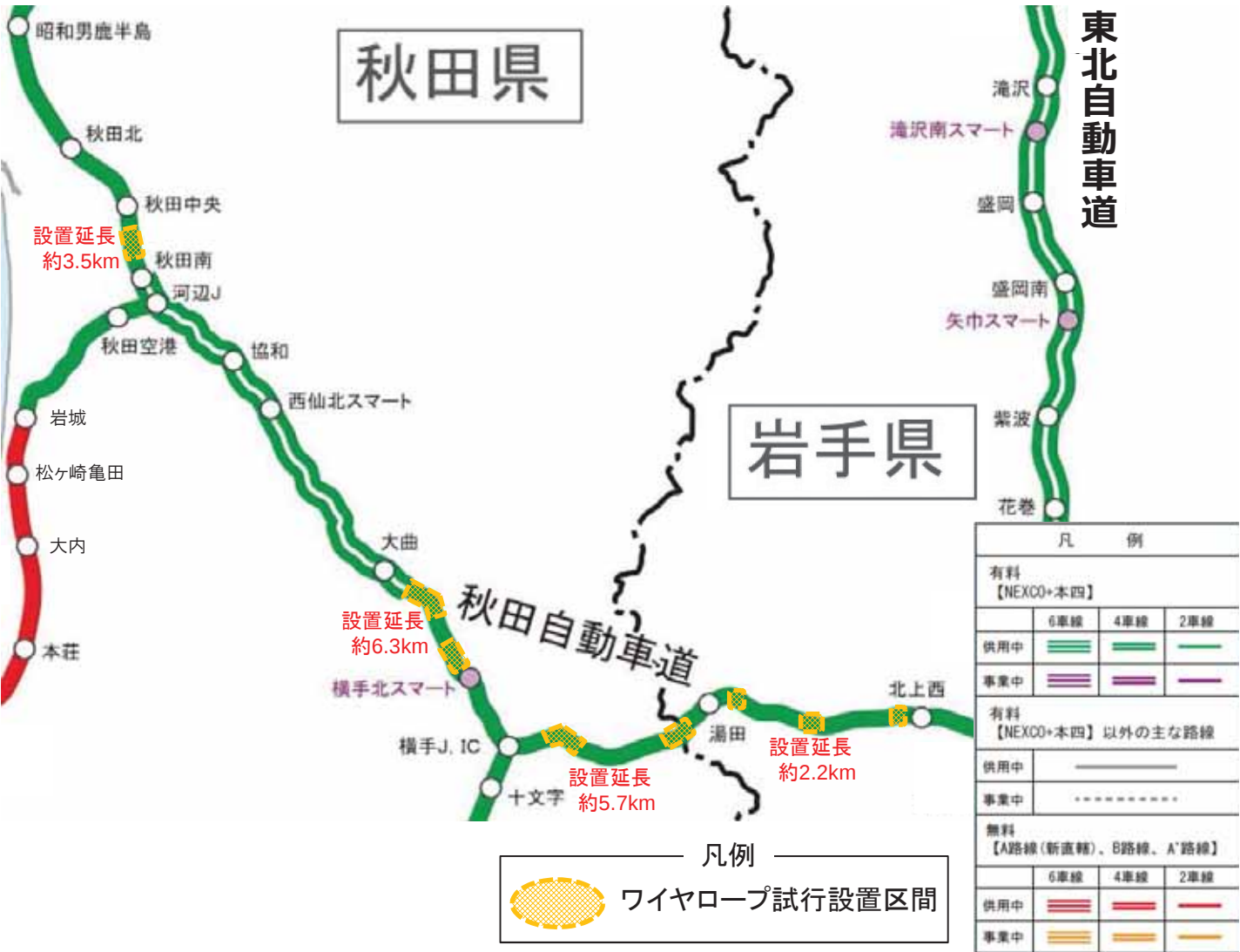
試行設置区間図



ワイヤロープの試行設置区間(秋田道)

道路名	設置箇所
秋田自動車道	北上西IC～湯田ICのうち約2.2km
	湯田IC～横手ICのうち約5.7km
	横手IC～大曲ICのうち約6.3km
	秋田南IC～秋田中央ICのうち約3.5km

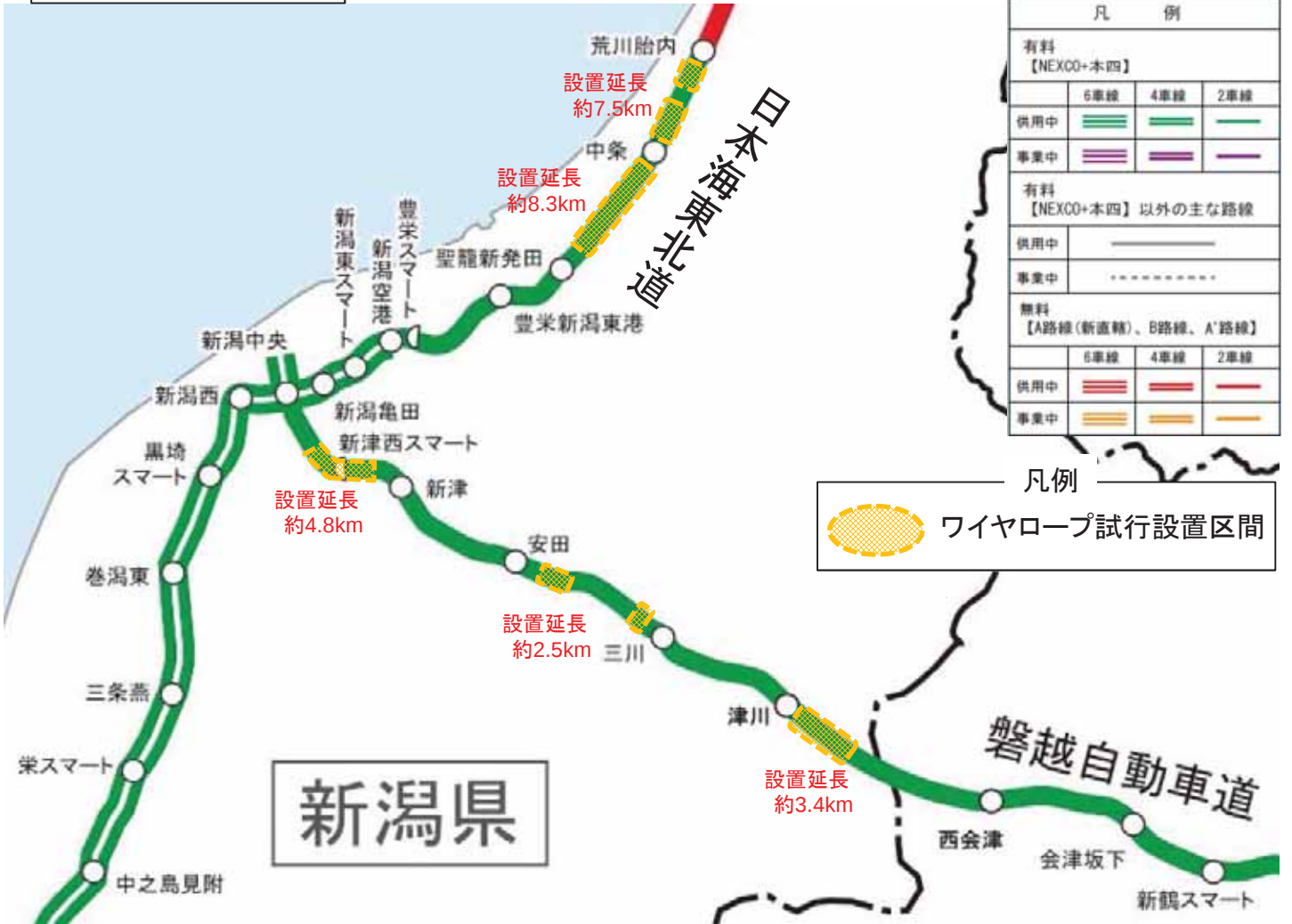
試行設置区間図



ワイヤロープの試行設置区間(磐越道、日東道)

道路名	設置箇所
日本海東北自動車道	聖籠新発田IC～中条ICのうち約8.3km
	中条IC～荒川胎内ICのうち約7.5km
磐越自動車道	西会津IC～津川ICのうち約3.4km
	三川IC～安田ICのうち約2.5km
	新津IC～新潟中央JCTのうち約4.8km

試行設置区間図



暫定二車線の高速道路：ワイヤロープ試行設置箇所

参考資料

